

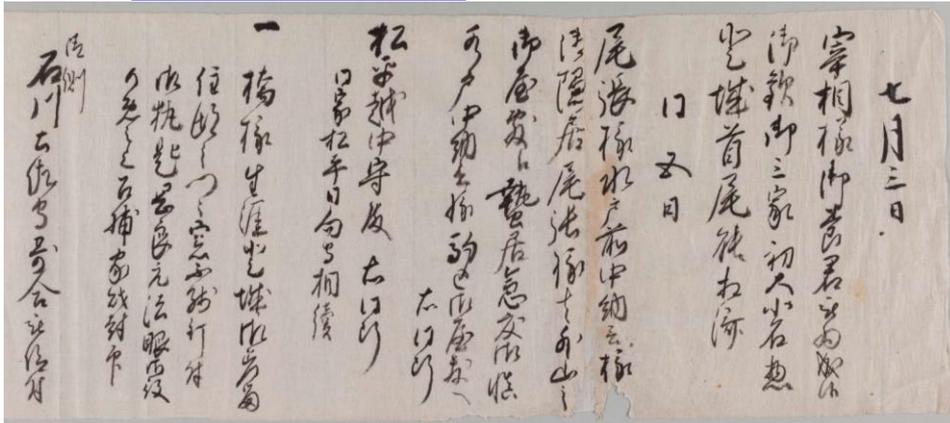
将軍継嗣問題 —和歌山に伝わる古文書からみる資料の特質—

江戸幕府 13 代将軍徳川家定^{いえさだ}の後継者を決める将軍継嗣問題^{けいし}は、列強からの通商条約締結の圧力とともに幕末の大きな問題となりました。このような幕府の政治の動向は、紀州にも風聞として伝わりました。現在の和歌山に残る資料から幕末の情勢と資料の特質について見ていきます。

1 資料

【資料】〔幕末状況写（宰相様御養君・異国船渡来・尾張水戸様蟄居等）〕

* 資料全体のデジタル画像



【翻刻】 * 全文の翻刻

七月三日
宰相様御養君被為成候
御歎御三家初大小名惣
登城首尾能相済
同五日
尾張様水戸前中納言様□
御隠居尾張様者外山之
御屋敷江蟄居急度御慎
水戸中納言様駒込御屋敷へ
右同断
松平越中守殿右同断
同家松平日向守相続
一 橋様生涯登城御差留
住邸之門々窓不残釘付
御執匙岡良元法眼御役
御免之上召捕家財封印
御側
石川土佐守寄合被仰付

【大意】 * 全文の大意

七月三日
宰相様（徳川慶福）が御養君（将軍継嗣）
となられたお祝いが、御三家をはじめ大名な
どがすべて江戸城に登り、首尾よく済んだ。
同五日
尾張様（尾張藩主徳川慶勝）、水戸前中納言
様（水戸前藩主徳川斉昭）は御隠居となり、
尾張様は外山の御屋敷（尾張藩邸）へ蟄居し
急度慎となる。水戸中納言様は駒込の御屋敷
（水戸藩邸）で右に同じ。
松平越中守殿（越前藩主松平慶永）も右に
同じ。同家は松平日向守（松平茂昭）が相続
（とする）。
一 橋様（一橋慶喜）は生涯江戸城への立ち
入りを差し止めとなり、住居の門や窓の全て
に釘付けとなる。
御匙医である岡良元は解任のうえ、捕らえ
て家財を封印となる。
御側衆
石川土佐守（石川政平）は、（御側衆を解任
され）寄合におおせつけられた。

【語句】

- ・宰相…官職の一つの参議に対する中国風の呼び方。
- ・御養君…將軍の跡継ぎのこと。
- ・中納言…官職の一つ。江戸時代には武家官位となり、その武士の格式を表すもので実際に従事していない。
ここではその官職を持つ人のことを指す。
- ・蟄居、急度慎…刑罰の一つ。自宅の一室に謹慎させ、親族や家臣との文通や面会を禁じるもの。
- ・越中守、日向守、土佐守…官職の一つ。律令制ではその地の国司だったが、江戸時代にはその武士の格式を表すのみ。ここではその官職を持つ人のことを指す。
- ・御匙医…將軍の病気を診断する医師のこと。
- ・御側衆…江戸幕府の職名。老中の管轄下で、將軍と幕閣の取り次ぎの役割をもつ。
- ・寄合…3000石以上か過去に位階が六位以上に相当する役職経験者の旗本で、役職をもたない者のこと。

2 解説

(1) 將軍継嗣問題

江戸幕府13代將軍徳川家定は子がいなかったため、跡継ぎをめぐって水戸前藩主徳川斉昭の子で三卿^{さんきやう}の一橋家を継ぎ、「英明」と言われた一橋(徳川)慶喜を推す一橋派と、家定と血統の近い幼年の紀州藩主徳川慶福を推す南紀派が対立する將軍継嗣問題が occurred。一橋派は幕政参画を目指す親藩の越前藩や外様大名の薩摩藩らが中心で、南紀派は現体制を維持しようとする譜代大名らが中心でした。

1858(安政5)年、南紀派の彦根藩主井伊直弼が大老に就任すると、日米修好通商条約の調印を行い、慶福を將軍の跡継ぎ(のちの14代將軍徳川家茂)に決め、これらに反対する一橋派の大名等を弾圧しました(安政の大獄)。この強硬な姿勢は、一橋派の大名や尊王攘夷^{そんのうじやうい}を唱える志士たちの反発を招きました。

(2) 本資料について

本資料は、紀の川市(旧・粉河町)荒見の旧家に伝わった幕末の風聞を書き留めたもので、1858(安政5)年7月に徳川慶福が將軍の跡継ぎに決まったこと、対立する一橋派の処分の内容といった幕府政治に関することが記されています。また、欧米からの異国船が江戸近辺に渡来していることや、尊王攘夷派によるクーデターの檄文などの江戸周辺の状況も記されています。

江戸時代後期は、各地域の経済活動が拡大するにつれて地域同士の交流が密に行われるようになりました。その結果、幕末には政治的な内容を含む多様な情報が写し書きなどによって全国各地に広がるなど、情報の交換が盛んに行われるようになりました。本資料が紀州に伝わっていたことから、江戸の動向が紀州の富裕層にも広がっていたことがわかります。

また本資料には、徳川慶勝、徳川斉昭、松平慶永、一橋(徳川)慶喜などの一橋派の大名の処分といった詳細な政治的な内容があり、当時の人々の政治に対する関心の高さが伺えます。

なお、本資料の「一橋様」の記述は、「一」と「橋」の間に空白があり、その後の行の先頭を空白にしています。このことから本資料を記した人物は、一橋慶喜を知らなかったため「一」を項目と解釈して写し書きしたと考えられます。

¹ 徳川將軍家の一族で、田安家、一橋家、清水家のこと。

² 尊王と攘夷を結び付けた思想や運動のこと。尊王は天皇を頂点に位置づけるもので、攘夷は開国に反対し外国勢力の排除を主張するもの。

3 活用のポイント

- **中学校社会〔歴史的分野〕の場合**

「本資料では、誰が将軍の跡継ぎとなったと記されているだろう？」「将軍の跡継ぎにならなかった人を支持した大名たちはどうなったのだろう？」などと問いかけることで、身近な和歌山に伝わった資料から、将軍の後継者をめぐる対立とその結果について読み取ることができます。

- **歴史総合の場合…A 歴史の扉**

A(2)歴史の特質と資料の授業の際に、本資料が作成されたときの背景を考察することによって、資料の特質を学ぶことができます。例えば、「本資料を記した人物はどのような人だと考えられるだろう？」「本資料が紀州の旧家に残されていたことからわかることはなんだろう？」などと問いかけることで、資料を読み取る際にはその資料の背景にある情報を留意して学習することが重要だと知ることができます。

また、本資料の全文に記された江戸の街道の木戸に掲げられた文章の写し書きと類似する文章が翻刻されている茨城県の「[南梁年録二十五](#)」(『[茨城県史料幕末編Ⅱ](#)』)、山形県の「[蹶起の檄文](#)」(『[西川町史編集資料第12号](#)』)を紹介することで、全国各地に同様の情報が広まっていたことに気付くことができます。

- **日本史探究の場合…D 近現代の地域・日本と世界**

D(1)近代への転換と歴史的環境で「本資料では、開国後の幕府の様子をどのように記しているだろう？」などと問いかけ、将軍継嗣問題や欧米列強の進出、尊王攘夷運動について読み取ることによって開国後の様々な問題を抱える幕末の情勢を知ることができます。

また、読み取った内容から「本資料に記されている内容について、他の文献を調べて考察しよう。」と問いかけることで、幕末の政治や社会の様子について探究する活動につながることができます。

4 出典

・当館所蔵 北一夫氏旧蔵北家文書

整理番号 イ-369 「〔幕末状況写（宰相様御養君・異国船渡来・尾張水戸様蟄居等）〕」

※文書群の詳細については、「[北一夫氏旧蔵北家文書目録 解題](#)」(PDF)をご覧ください。

5 関連資料・ウェブサイト等

・「[文書館だより](#)」第4号（和歌山県立文書館）

・茨城県立歴史館編『[茨城県史料幕末編Ⅱ](#)』茨城県、1989年（[国立国会図書館デジタルコレクション](#)）

…国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービスを利用することで閲覧可能

・那須貞太郎編『[西川町史編集資料第12号](#)』西川町教育委員会、1982年（[国立国会図書館デジタルコレクション](#)）…国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービスを利用することで閲覧可能

6 参考文献

・和歌山県史編さん委員会編『和歌山県史 近世』和歌山県、1990年

・宮地正人『幕末維新変革史（上）』岩波書店、2018年